

「高校教育に関する意識調査」

報 告 書

令和6年6月

山形県教育局高校教育課高校未来創造室

目 次

I. 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 調査の設計（配布数・回収数・回収率）	1
(1) 中学校3年・義務教育学校9年生徒	1
(2) 中学校3年・義務教育学校9年保護者	1
(3) 高校1年生徒	1
(4) 高校1年保護者	1
(5) 中学校・義務教育学校教員	2
(6) 高校教員	2
4. 報告書の見方	2
II. 調査結果の概要	3
III. 調査結果	
1. 中学校3年生徒、保護者	5
(1) 現在通っている学校の地区	5
(2) 高校に進学する場合、学習したい学科について	6
(3) 学習したい専門学科について	7
(4) 総合学科で学習したい《させたい》理由について	8
(5) 高校を選ぶときに重視すること	10
(6) 高校を選ぶときに参考にすること	12
(7) 県立高校を選ぶとき、入試について重要だと思うこと	14
(8) 希望学歴について	16
(9) 高校教育に望むこと	18
(10) 希望する1学年当たりの学校規模について	20
(11) 1学年あたり2学級（80人）以下の「規模の小さな高校」での学びについて	23
2. 高校1年生徒、保護者	25
(1) 現在通っている学校の地区	25
(2) 現在通っている学校の学科名	26
(3) 中学生時代、高校を選んだときに重視したこと	27
(4) 中学校時代に高校を選んだときに参考にしたもの	29
(5) 高校入試について重要だと思うこと	31

(6) 希望学歴について	33
(7) 高校教育に望むこと	35
(8) あなたの通う学校の規模（生徒数）の評価	37
3. 中学校教員、高校教員	39
(1) 所属校の種別	39
(2) 所属校の地区別	39
(3) 教員の立場から、今後の県立高校の配置を考える上で重視すること	40
(4) 教員の立場から、高校の教育に望むこと	42
(5) 教員の立場から、今後の定時制・通信制教育に期待すること	44
(6) 高校入試について望む改善	46

I 調査の概要

I 調査の概要

1. 調査の目的

県立高等学校の在り方検討委員会（R5～R6）における検討の基礎資料とするため、高校教育に関する意識調査を実施する。

2. 調査の内容

公立中学校・義務教育学校・県立高等学校、その保護者及び教職員を対象とし、調査対象校へ調査の概要を郵送し、Webによる回答方式のアンケート調査を行った。

3. 調査の設計（配布数・回収数・回収率）

（1）中学校3年・義務教育学校9年生徒

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1) 対象中学校3年・義務教育学校9年 : | 95校 |
| 2) 調査対象者数 : | 3,694人 |
| 3) 回収数 : | 2,495人 |
| 4) 回収率 : | 67.5% |

（2）中学校3年・義務教育学校9年保護者

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1) 対象中学校3年・義務教育学校9年 : | 95校 |
| 2) 調査対象者数 : | 3,687人 |
| 3) 回収数 : | 1,104人 |
| 4) 回収率 : | 29.9% |

（3）高校1年生徒

- | | |
|-------------|----------|
| 1) 対象高校 : | 45校（分校含） |
| 2) 調査対象者数 : | 2,941人 |
| 3) 回収数 : | 1,748人 |
| 4) 回収率 : | 59.4% |

（4）高校1年保護者

- | | |
|-------------|----------|
| 1) 対象高校 : | 45校（分校含） |
| 2) 調査対象者数 : | 2,952人 |
| 3) 回収数 : | 1,291人 |
| 4) 回収率 : | 43.7% |

(5) 中学校・義務教育学校教員

1) 対象中学校・義務教育学校	:	95校
2) 調査対象者数	:	2,115人
3) 回収数	:	1,029人
4) 回収率	:	48.7%

(6) 高校教員

1) 対象高校	:	45校(分校含)
2) 調査対象者数	:	1,900人
3) 回収数	:	917人
4) 回収率	:	48.3%

4. 報告書の見方

- (1) 図表の中の N とは、回答者数のことである。
- (2) 百分比は回答者総数全体（該当質問においては該当者数）に占める質問の選択者数の比率として算出している。なお、図表では小数点第2位をそれぞれ四捨五入しているため、百分比の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 1つの質問において2つ以上の回答を求めたものもあり、従ってその場合の百分比の合計は100%を超える。
- (4) 各層別の分析において、回答者総数が僅少なものについては誤差が大きくなるため、本文での分析からはずすなど、参考として傾向をみるにとどめている。
- (5) II調査結果における「中学校」は中学校及び義務教育学校を指す。また、「中学校3年」は中学校3年及び義務教育学校9年を指す。
- (6) 地区については以下のとおりとする。

村山地区：山形市、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、山辺町、
中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町

最上地区：新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村

置賜地区：米沢市、長井市、南陽市、高島町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町

庄内地区：鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町

II 調査結果の概要

Ⅱ 調査結果の概要

1 学習したい学科について

中学生が希望する高校の学科については、普通科：専門学科：総合学科が概ね7：2：1であり、前回調査より、普通科の希望の割合が増加している。中学生保護者は約62%が普通科、約26%が専門学科を希望しており前回調査より増加し、総合学科が減少している。

2 学習したい専門学科について

専門学科を希望する中では、中学生、中学生保護者とも工業科への進学希望が最も多い。

前回調査より中学生は工業科を志望する生徒が多いが割合は低下し、商業科と情報科の割合は微増している。中学生保護者は、工業科・商業科・家庭科が微増し、理数科と情報科が大きく増加している。

3 総合学科の学習について

中学生、中学生保護者に対して、学習したい学科を「総合学科」と答えた理由として、両者とも「教科・科目の選択の自由度が高く、自分の進路や好みに応じて自分で時間割を作成することができるから」が最も多く、次いで「将来の進路を迷っており、総合学科でいろいろな分野を学習して決めたいと考えたから」となっている。

4 高校を選ぶときに重視すること（したこと）

中学生、中学生保護者、高校生保護者は、「大学等への進学が有利であること」が最も多く、次いで「自転車や徒歩で通学できるなど自宅から距離が近いこと」が多い。

高校生は「自転車や徒歩で通学できるなど自宅から距離が近いこと」が最も多く、次いで進学・就職に有利であることをあげている。

5 高校を選ぶときに参考にすること（したこと）

中学生、中学生保護者は、「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」が最も多く、次いで「中学校の先生からの助言」が多い。

高校生は「保護者からの助言」が最も多く、「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」「中学校の先生からの助言」の順となっている。

高校保護者は、「本人の意向」が最も多く、「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」「中学校の先生からの助言」の順となっている。

6 高校入試で重要だと思うこと

中学生、高校生は、「特になし」が最も多い。中学生保護者及び高校生保護者は、「複数の県立高校を受検できること」が最も多い。

中学校教員、高校教員は、「一般入試の合格発表後に、定員に満たない学校について二次募集を実施する」が最も多い。

7 希望学歴

中学生の約 75%、高校生の約 70%が高校卒業後の進学を希望しているのに対して、中学生保護者、高校生保護者の約 80%が、子どもが進学することを望んでいる。

前回調査より、中学生、中学生保護者、高校生、高校生保護者の全てにおいて、「四年制大学まで」と回答した割合が増加している。

8 高校教育に望むこと

中学生、中学生保護者、高校生、高校生保護者、中学校教員、高校教員は、「興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が最も多い。

中学生、中学生保護者、高校生、高校生保護者は、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」「進学・就職に役に立つ資格取得のための教育」の順になっている。

9 希望する学校の規模

中学校、中学生保護者ともに希望する学校規模は、約 50%が「4 学級から 6 学級程度」が最も多い。前回調査と比較すると中学校、中学生保護者ともに「2 学級から 3 学級程度」の希望が増加している。（*注 今回の調査と前回調査の学級数の選択肢区分が異なる。）

高校生、高校生保護者ともに「学習面でも学校生活面でも、今の規模が適正と考えるため、現状のままでよい」が最も多い。

10 規模の小さな高校の学びについて

中学生、中学生保護者は「一人ひとりが存在感を持ち、充実した高校生活を送ることができる」が最も多く、次いで「学び直しや生徒一人一人に寄り添った教育がなされている」となっている。

11 今後の県立高校の配置を考える上で重視すること

中学校教員では「充実した教育課程や部活動をもつ適正規模（1 学年 4～8 学級）の高校を配置する」が最も多く、次いで「公共交通機関の利便性が良い場所に高校を配置する」となっている。高校教員では「公共交通機関の利便性が良い場所に高校を配置する」が最も多く、次いで「充実した教育課程や部活動をもつ適正規模（1 学年 4～8 学級）の高校を配置する」となっている。

12 今後の定時制・通信制教育に期待すること

中学校教員は「基礎的な内容をじっくりと学ぶことができる」が最も多く、次いで「小さな集団で落ち着いて学ぶことができる」となっている。高校教員は「小さな集団で落ち着いて学ぶことができる」が最も多く、次いで「基礎的な内容をじっくりと学ぶことができる」となっている。

（*注 今回の調査では、高校生、高校生保護者は 1 年生で実施し、過去の調査は 3 年生で実施）

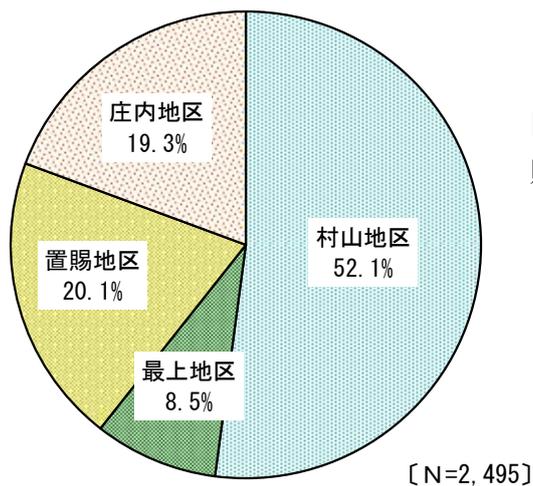
Ⅲ 調査結果

Ⅲ 調査結果

1. 中学校3年生徒、保護者

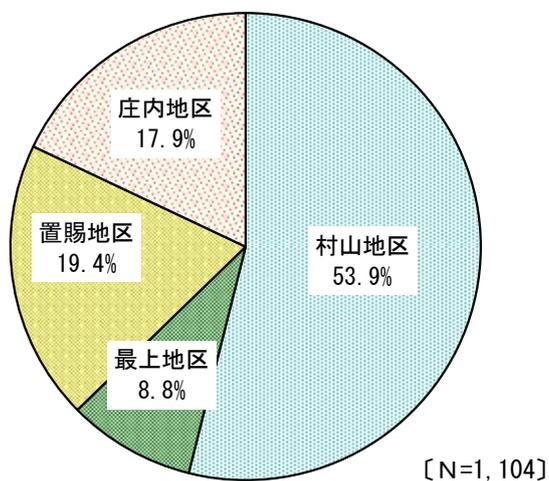
(1) 現在通っている学校の地区

【中学校3年生徒】



通っている学校の地区では、「村山地区」が52.1%、「最上地区」が8.5%、「置賜地区」が20.1%、「庄内地区」が19.3%となっています。

【中学校3年保護者】

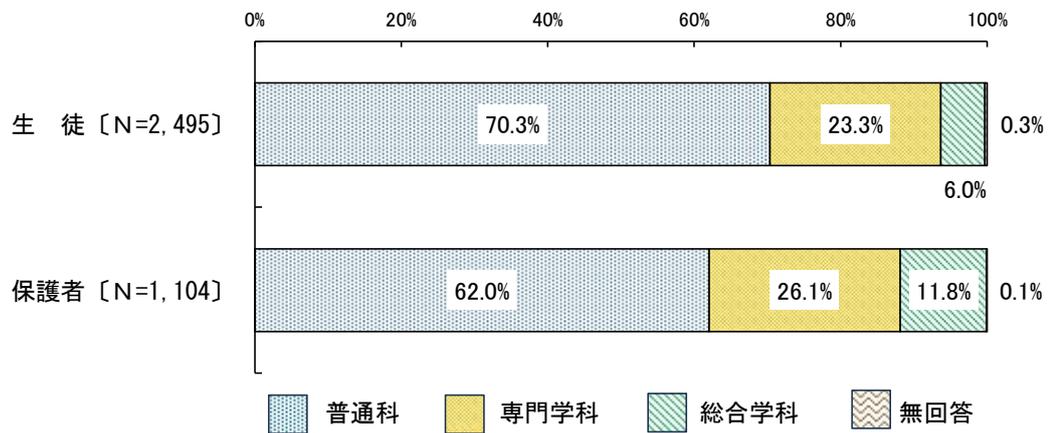


お子さんが通っている学校の地区では、「村山地区」が53.9%、「最上地区」が8.8%、「置賜地区」が19.4%、「庄内地区」が17.9%となっています。

(2) 高校に進学する場合、学習したい学科について

生徒:あなたは高校に進学する場合、どの学科で学習したいと思いますか。
保護者:あなたは、お子さんが高校に進学する場合、どの学科で学習させたいと思いますか。

※1つ回答



高校に進学する場合、学習したい学科について、生徒では「普通科」が70.3%で割合が最も高く、次いで「専門学科」が23.3%、「総合学科」が6.0%の順となっています。

また、保護者では「普通科」が62.0%で割合が最も高く、次いで「専門学科」が26.1%、「総合学科」が11.8%の順となっていますが、「普通科」では8.3ポイント生徒の割合が高く、「専門学科」では2.8ポイント、「総合学科」では5.8ポイント保護者の割合が高くなっています。

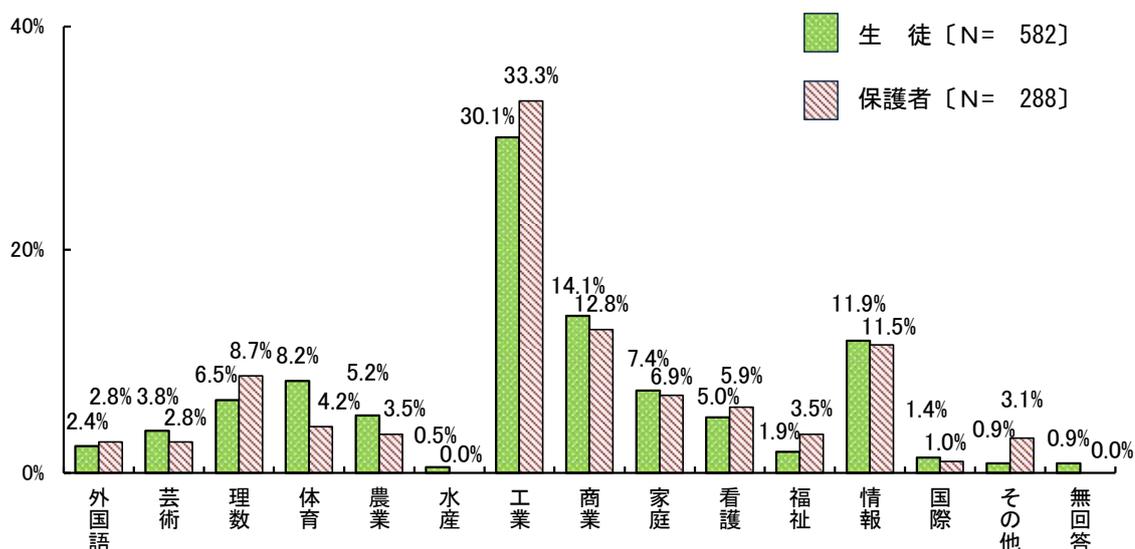
(3) 学習したい専門学科について

「専門学科」と答えた方のみにお聞きします。

生徒:どの学科で学習をしたいと思いますか。

保護者:お子さんをどの学科で学習させたいと思いますか。

※1つ回答



学習したい学科で「専門学科」と答えた生徒に、学習したい専門学科についてたずねたところ、「工業」が30.1%で割合が最も高く、次いで「商業」が14.1%、「情報」が11.9%、「体育」が8.2%の順となっています。

また、保護者では「工業」が33.3%で割合が最も高く、次いで「商業」が12.8%、「情報」が11.5%、「理数」が8.7%の順となっています。

参考：県立高等学校全日制課程における専門に関する学科等設置状況（令和5年度）

	大学科名	小学科名
職業学科	農業	食料環境、生物生産、農産活用、農業経営、食料生産、園芸福祉、食品科学、みどり活用
	水産	水産
	工業	機械、電気情報、建築、情報技術、電子情報、生産デザイン、電気電子、情報通信、環境工学、環境デザイン、環境技術、機械電気、環境化学、土木・化学、機械制御、機械技術、福祉環境、電子、メカニカルエンジニア、ロボットエンジニア、ITエンジニア
	商業	情報経営、総合ビジネス、流通ビジネス、ビジネス流通、ビジネス会計、商業
	家庭	食物、福祉
	看護	看護
	情報	情報
専門学科系 普通科系	理数	理数、理数探究
	体育	スポーツ
	音楽	音楽
	国際	国際探究

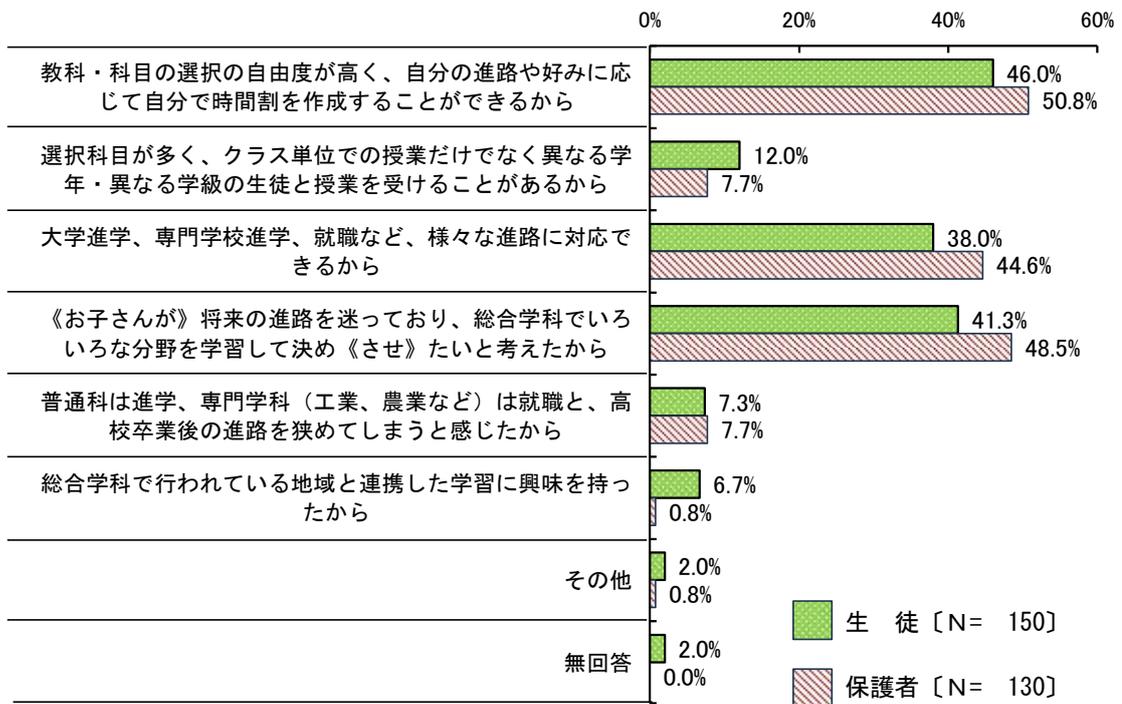
(4) 総合学科で学習したい《させたい》理由について

「総合学科」と答えた方のみにお聞きします。

生徒:どのような理由から総合学科で学習したいと思いますか。

保護者:どのような理由からお子さんを総合学科で学習させたいと思いますか。

※2つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

学習したい学科で「総合学科」と答えた生徒に、理由をたずねたところ、「教科・科目の選択の自由度が高く、自分の進路や好みに応じて自分で時間割を作成することができるから」が46.0%で割合が最も高く、次いで「将来の進路を迷っており、総合学科でいろいろな分野を学習して決めたいと考えたから」が41.3%、「大学進学、専門学校進学、就職など、様々な進路に対応できるから」が38.0%、「選択科目が多く、クラス単位での授業だけでなく異なる学年・異なる学級の生徒と授業を受けることがあるから」が12.0%の順となっています。

また、保護者では「教科・科目の選択の自由度が高く、自分の進路や好みに応じて自分で時間割を作成することができるから」が50.8%で割合が最も高く、次いで「《お子さんが》将来の進路を迷っており、総合学科でいろいろな分野を学習して決め《させ》たいと考えたから」が48.5%、「大学進学、専門学校進学、就職など、様々な進路に対応できるから」が44.6%、「選択科目が多く、クラス単位での授業だけでなく異なる学年・異なる学級の生徒と授業を受けることがあるから」、「普通科は進学、専門学科（工業、農業など）は就職と、高校卒業後の進路を狭めてしまうと感じたから」が共に7.7%の順となっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

Q：(専門学科のうち)どの学科で学習したいと思いますか。

- ・探究科
- ・理美容
- ・未定

Q：どのような理由から総合学科で学習したいと思いますか。

- ・他の科ではできない特別な内容に魅力を感じたから
- ・好きなことを探究できるため

〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

Q：(専門学科のうち)お子さんをどの学科で学習させたいと思いますか。

- ・本人の希望に沿う学科
- ・探究科
- ・美容・ファッション系
- ・航空
- ・進学
- ・エンターテインメント

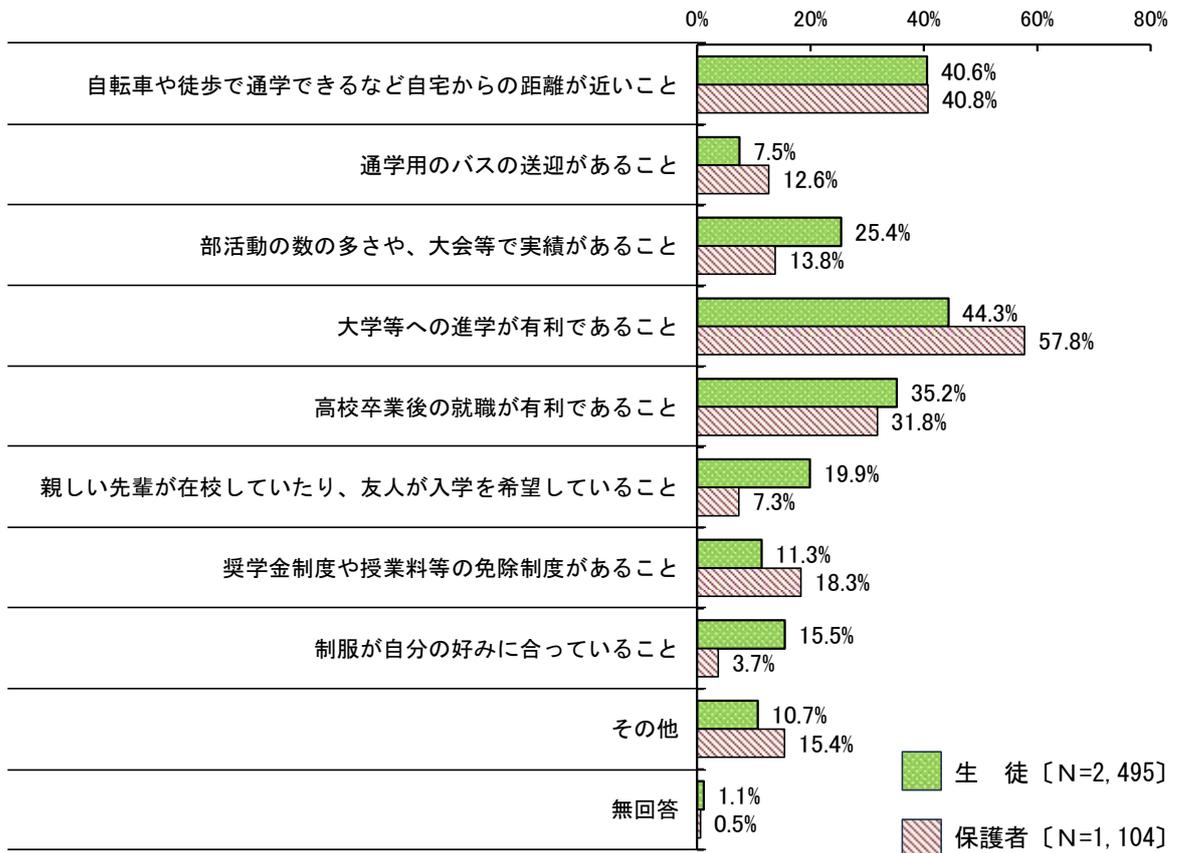
Q：どのような理由から総合学科で学習させたいと思いますか。

- ・ハイレベルな探究活動ができそうだから

(5) 高校を選ぶときに重視すること

生徒:あなたは高校を選ぶときに、どのようなことを重視しますか。
 保護者:あなたは、お子さんの高校を選ぶときに、保護者としてどのようなことを重視しますか。

※3つまで回答



高校を選ぶときに重視することについては、生徒では「大学等への進学が有利であること」が44.3%で割合が最も高く、次いで「自転車や徒歩で通学できるなど自宅からの距離が近いこと」が40.6%、「高校卒業後の就職が有利であること」が35.2%、「部活動の数の多さや、大会等で実績があること」が25.4%の順となっています。

また、保護者では「大学等への進学が有利であること」が57.8%で割合が最も高く、次いで「自転車や徒歩で通学できるなど自宅からの距離が近いこと」が40.8%、「高校卒業後の就職が有利であること」が31.8%、「奨学金制度や授業料等の免除制度があること」が18.3%の順となっていますが、「大学等への進学が有利であること」では13.5ポイント保護者の割合が高く、「親しい先輩が在籍していたり、友人が入学を希望していること」では12.6ポイント、「制服が自分の好みに合っていること」では11.8ポイント、「部活動の数の多さや、大会等で実績があること」では11.6ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・自分のやりたいことに合っていること
- ・自分の学びたいことが学べること
- ・就職や進学といった将来の進路目標の達成ができること
- ・行事など学校の雰囲気が楽しそうであること
- ・学校が綺麗で設備が整っていること
- ・入りたい部活動があること

〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

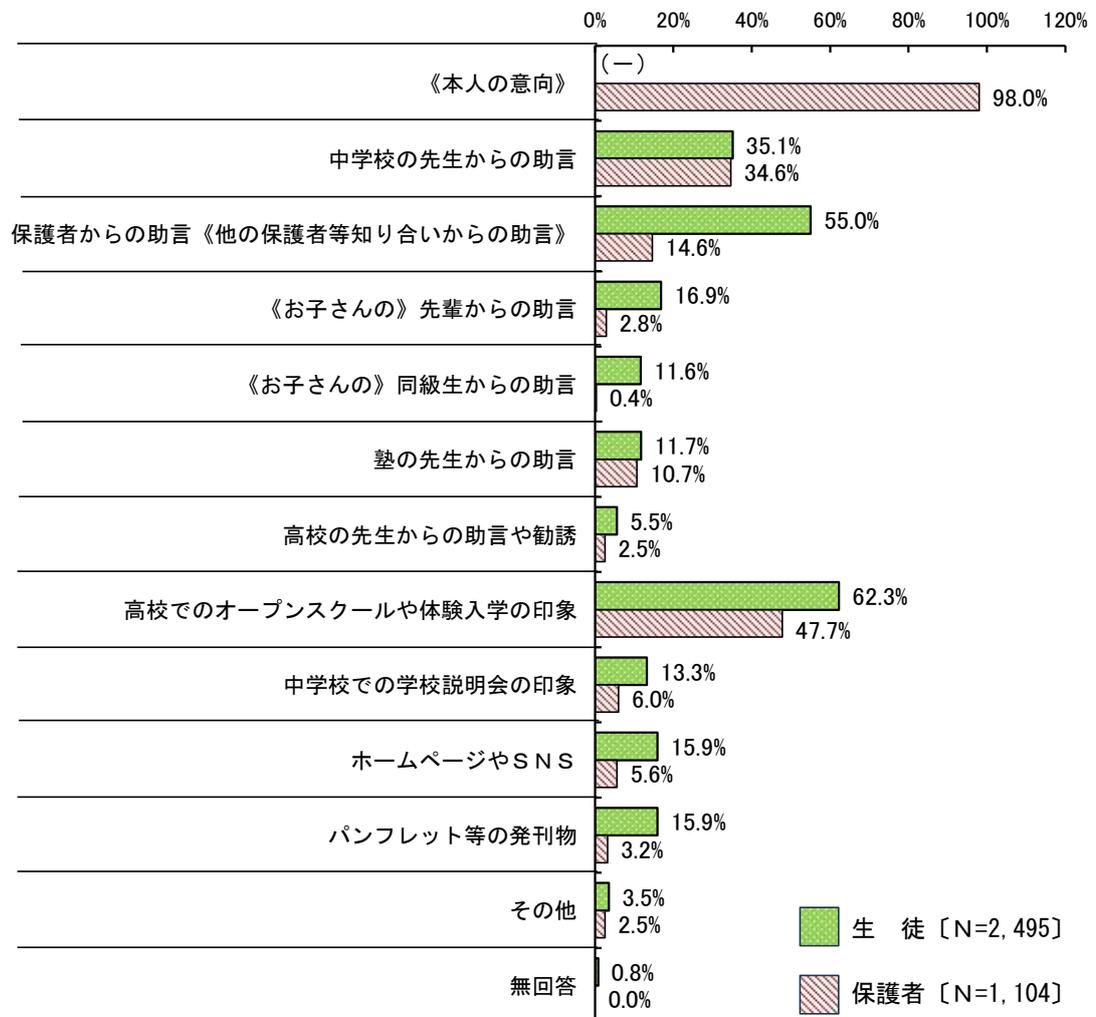
- ・本人の希望、意思を尊重
- ・本人の学びたい学科や科目があること
- ・本人の学力に合った学校
- ・本人の将来の進路に有利なこと
- ・学校の雰囲気（校風）が子供に合っていること
- ・通学の便がよいこと

(6) 高校を選ぶときに参考にすること

生徒:あなたは高校を選ぶときに、何を参考にしますか。

保護者:あなたは、お子さんの高校を選ぶときに、何を参考にしますか。

※3つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

高校を選ぶときに参考にすることについて、生徒では「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」が62.3%で割合が最も高く、次いで「保護者からの助言」が55.0%、「中学校の先生からの助言」が35.1%、「先輩からの助言」が16.9%の順となっています。

また、保護者では「《本人の意向》」が98.0%で割合が最も高く、次いで「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」が47.7%、「中学校の先生からの助言」が34.6%、「保護者からの助言《他の保護者等知り合いからの助言》」が14.6%の順となっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・自分の意志
- ・兄弟姉妹からの助言
- ・自分の学力で判断
- ・将来の進路目標が達成できること
- ・学校行事の充実や、楽しいと思える校内の雰囲気
- ・部活動の大会成績などの実績がいいこと

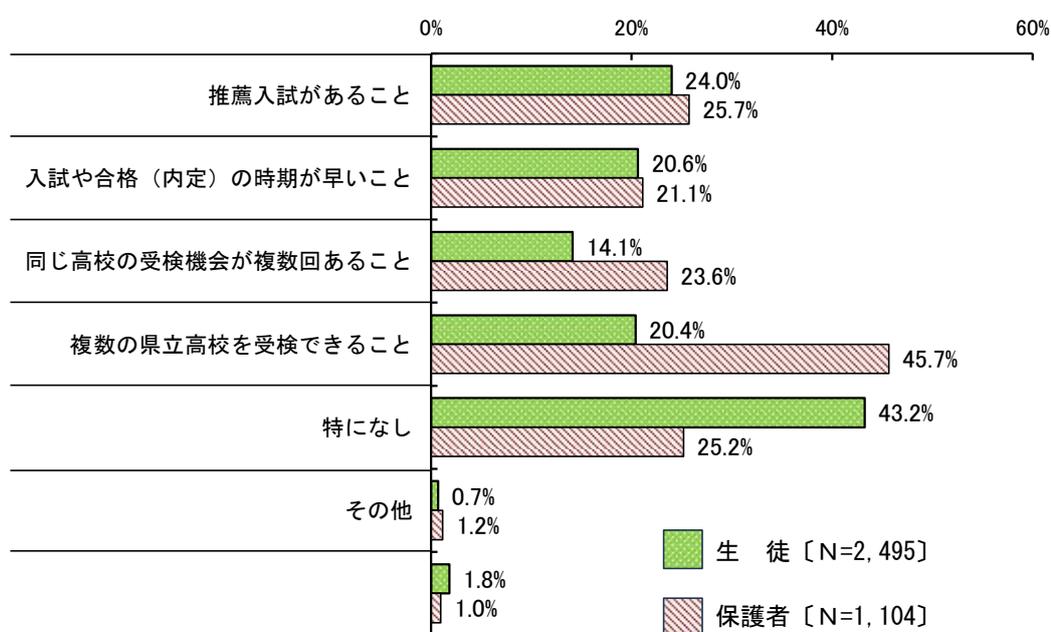
〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

- ・兄弟姉妹からの情報や家族での話し合い
- ・本人の成績
- ・将来の進路選択や大学進学率など
- ・自宅からの距離や通学の便
- ・学費等かかる費用

(7) 県立高校を選ぶとき、入試について重要だと思うこと

生徒：あなたが県立高校を選ぶときに、入試について重要だと思うことはどれですか。
 保護者：あなたは、保護者の考えとして、県立高校の入試について重要だと思うことはどれですか。

※2つまで回答



県立高校を選ぶとき、入試について重要だと思うことについて、生徒では「特になし」が 43.2%で割合が最も高く、次いで「推薦入試があること」が 24.0%、「入試や合格（内定）の時期が早いこと」が 20.6%、「複数の県立高校を受検できること」が 20.4%の順となっています。

また、保護者では「複数の県立高校を受検できること」が 45.7%で割合が最も高く、次いで「推薦入試があること」が 25.7%、「特になし」が 25.2%、「同じ高校の受検機会が複数回あること」が 23.6%の順となっていますが、「複数の県立高校を受検できること」では 25.3 ポイント、「同じ高校を複数回受験できること」では 9.5 ポイント保護者の割合が高く、「特になし」では 18.0 ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・ 志願者全員が合格できること
- ・ 難しくないこと
- ・ 追検査があること
- ・ 学科を複数受検できること
- ・ 調査書と学力検査の比率

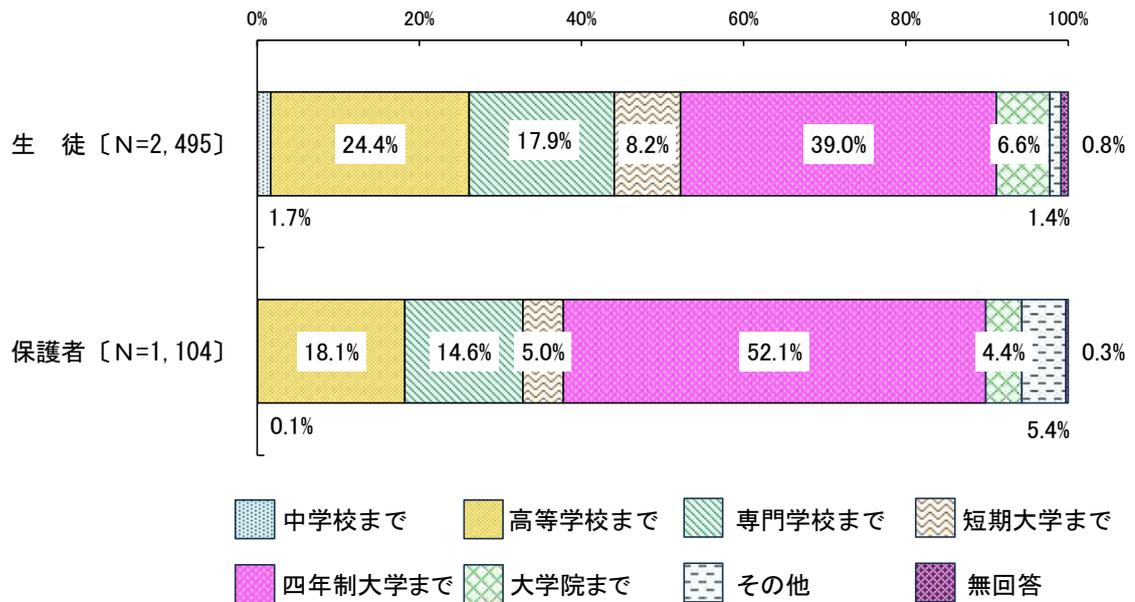
〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

- ・ 確実に進学できること
- ・ 中学校で学んだことが活かせること
- ・ 体調不良が起きやすい時期は避けて欲しい
- ・ 支援を要する生徒への適切な支援
- ・ 学区制の撤廃

(8) 希望学歴について

生徒: あなたはどの程度までの教育を受けたいと思いますか。
 保護者: あなたは、保護者として、お子さんにはどの程度までの教育を受けさせたいと思いますか。

※1つ回答



受けたい教育の程度について、生徒では「四年制大学まで」が39.0%で割合が最も高く、次いで「高等学校まで」が24.4%、「専門学校まで」が17.9%、「短期大学まで」が8.2%の順となっています。

また、保護者では「四年制大学まで」が52.1%で割合が最も高く、次いで「高等学校まで」が18.1%、「専門学校まで」が14.6%、「短期大学まで」が5.0%の順となっていますが、「四年制大学まで」では13.1ポイント保護者の割合が高く、「高等学校まで」では6.3ポイント、「専門学校まで」では3.3ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・医学部や薬学部などの六年制
- ・高等専門学校
- ・職業に関する専門的な養成所等
- ・未定、まだわからない

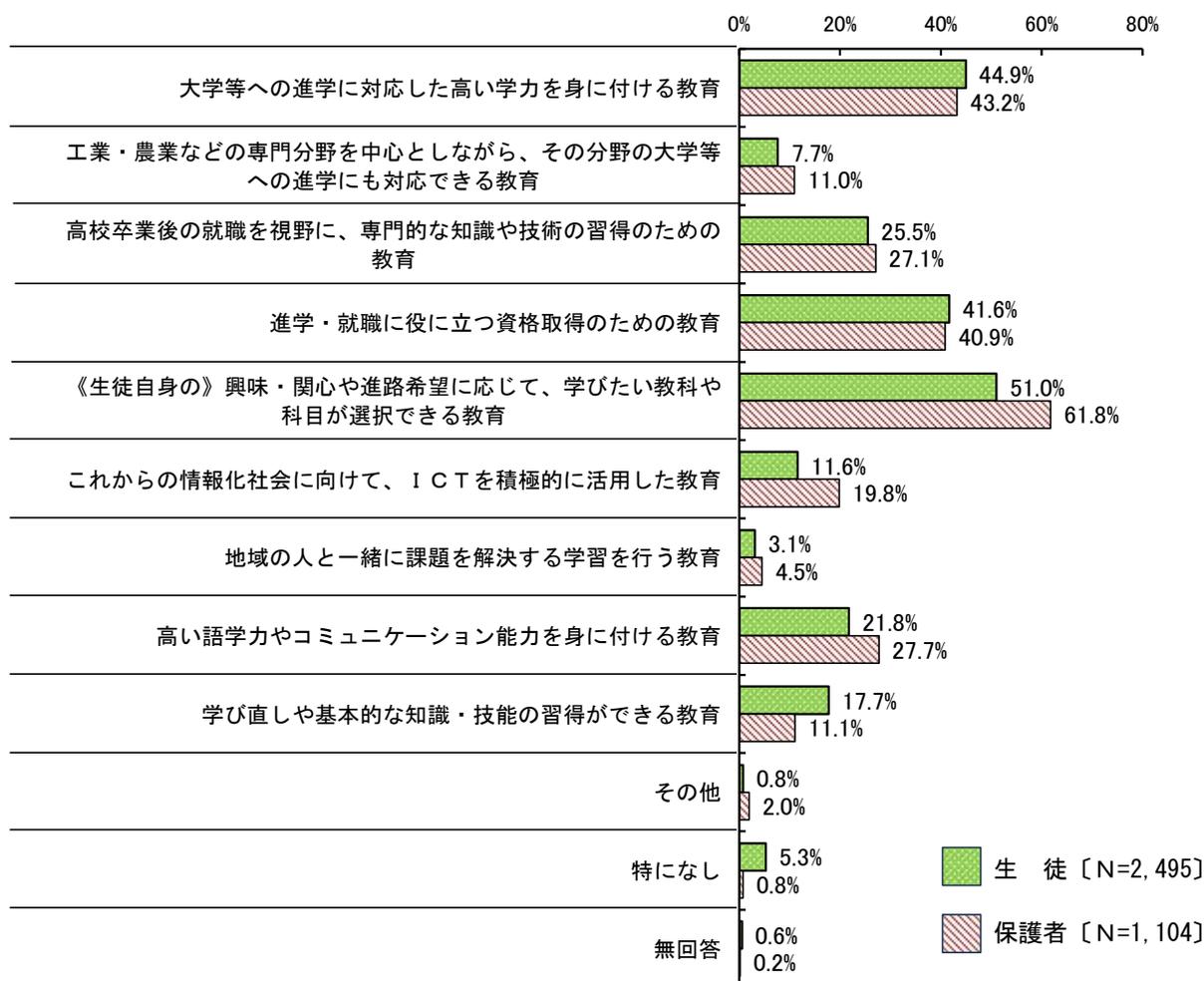
〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

- ・本人が希望するところまで
- ・専門課程にすすむなら大学院まで
- ・未定、まだわからない

(9) 高校教育に望むこと

生徒:あなたは、高校の教育について、どんなことを望みますか。
保護者:あなたは、保護者として、高校の教育について、どんなことを望みますか。

※3つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

高校教育に望むことについては、生徒では「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が51.0%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が44.9%、「進学・就職に役に立つ資格取得のための教育」が41.6%、「高校卒業後の就職を視野に、専門的な知識や技術の習得のための教育」が25.5%の順となっています。

また、保護者では「《生徒自身の》興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が61.8%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が43.2%、「進学・就職に役に立つ資格取得のための教育」が40.9%、「高い語学力やコミュニケーション能力を身に付ける教育」が27.7%の順となっていますが、「《生徒自身の》興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」では10.8ポイント保護者の割合が高くなっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・将来の進路に関する職業教育など、社会で役に立つ学び
- ・グローバル化の進む国際社会に対応できる学び
- ・探究学習や多面的な能力を身に着ける学び
- ・スポーツや文化に関する専門性 ・ロボットなどの先端技術

〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

- ・自立した社会人として将来生きていくための教育
- ・生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な教育
- ・多様性に対応できるような柔軟な考え方
- ・仲間づくりや人間関係の構築 ・海外留学

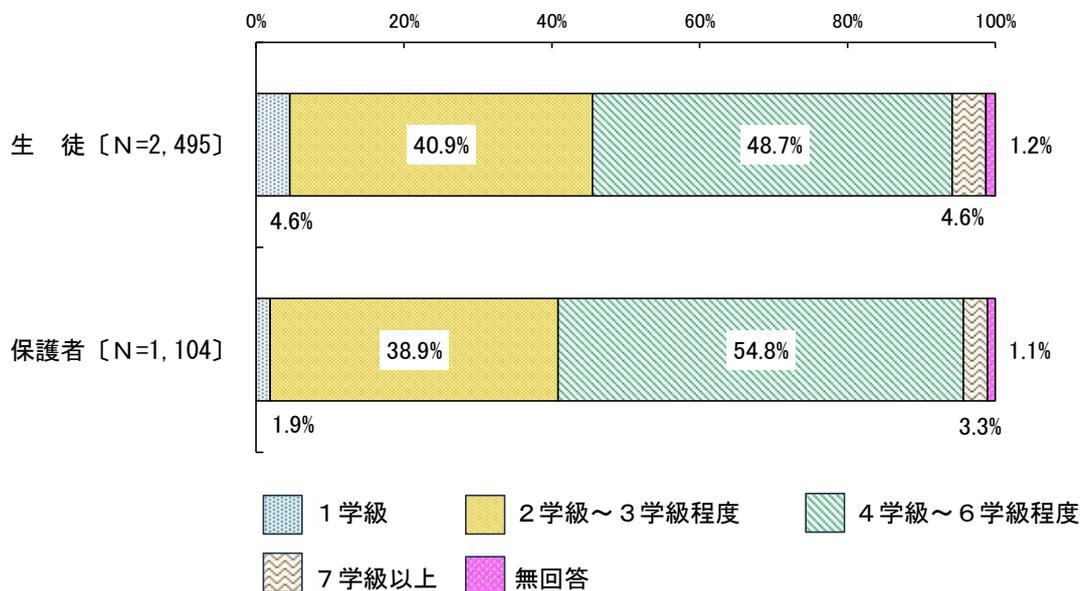
(10) 希望する1学年当たりの学校規模について

高校の規模について、1学年1～3学級の学級数の少ない高校では、教員によるきめ細やかで個別的な学習指導や進路指導、地域と連携した独自の教育活動が盛んに行われています。一方で、学級数の多い高校では、選択の幅の広い教科・科目の開設や、多様な部活動、多くの教員や生徒と切磋琢磨できる環境が整っている等、学校規模によりそれぞれの特徴や良さがあります。

生徒:あなたは、1学年当たりどの程度の学校規模への進学を希望しますか。

保護者:あなたは、保護者の考えとして、1学年当たりどの程度の学校規模の学校に進学させたいと思いますか。

※1つ回答



希望する1学年当たりの学校規模について、生徒では「4学級～6学級程度」が48.7%で割合が最も高く、次いで「2学級～3学級程度」が40.9%、「1学級」、「7学級以上」が共に4.6%の順となっています。

また、保護者では「4学級～6学級程度」が54.8%で割合が最も高く、次いで「2学級～3学級程度」が38.9%、「7学級以上」が3.3%、「1学級」が1.9%の順となっています。

その理由を教えてください。

〔中学校3年生徒 「1学級」の主な意見〕

- ・クラス替えもなく、安定した人間関係が構築できるから
- ・個々に寄り添った丁寧な指導を受けることができるから
- ・自分のペースで生活したいから
- ・人数が多いのは苦手だから
- ・中学校と同じ規模だから

〔中学校3年生徒 「2学級～3学級程度」の主な意見〕

- ・個人が大事にされつつ、一定の集団として生活しやすそうだから
- ・きめ細やかな指導を受けることができるから
- ・よりよい人間関係を築くことができるから
- ・中学校と同じ規模だから

〔中学校3年生徒 「4学級～6学級程度」の主な意見〕

- ・たくさんの人と接することが自分の成長につながり、学校生活も楽しいから
- ・多様な見方が学べ、切磋琢磨しながら学校生活を送ることができるから
- ・科目の選択幅が多いと、将来の進路に役立つから
- ・部活動の数が多く、チームも組めるから
- ・中学校と同じ規模だから

〔中学校3年生徒 「7学級以上」の主な意見〕

- ・幅の広い科目を学習することは自分の将来に繋がるから
- ・価値観の異なる多くの友人と関われるから
- ・学習や部活動で切磋琢磨できる環境があるから
- ・特に理由はないが楽しそうだから

〔中学校3年保護者 「1学級」の主な意見〕

- ・必要なことが身につくなら学級数はいくつでもよい

〔中学校3年保護者 「2学級～3学級程度」の主な意見〕

- ・少人数で落ち着いた環境の方が、自分らしくのびのび学べると思うから
- ・ある程度教員数があり、一人ひとりきめ細やかな指導を望むから
- ・先生と生徒との関わりのある環境を考えると、適当な規模だから
- ・人間関係を学ぶにはちょうどいい規模だから
- ・中学校と同じ規模だから

〔中学校3年保護者 「4学級～6学級程度」の主な意見〕

- ・高校時代にたくさんの友人と交流して、多様性を身に付けて欲しいから
- ・学校に活力があり、子供の成長にある程度の競争は必要だから
- ・生徒それぞれの進路希望に応じた選択科目数が必要だから
- ・学習だけでなく、部活動も活発であって欲しいから

〔中学校3年保護者 「7学級以上」の主な意見〕

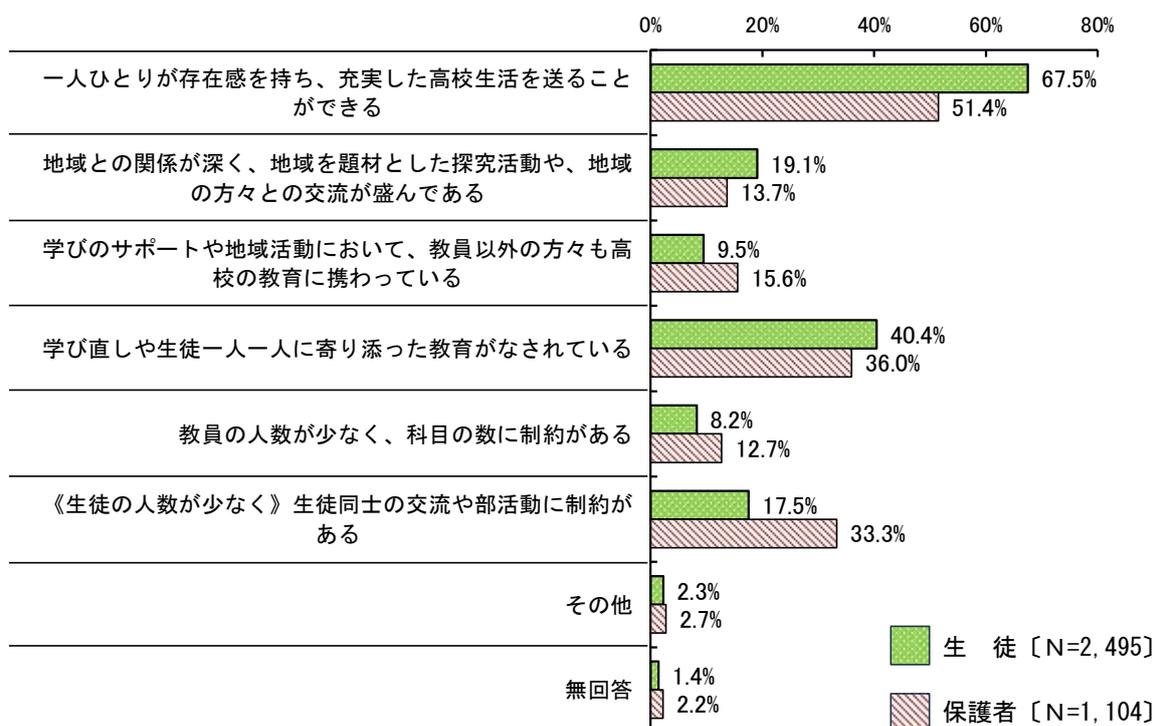
- ・多くの出会いから切磋琢磨しながら人間関係を学んでほしいから
- ・人数がいた方が学校に活力があるから
- ・学びの幅や教育環境が広がるから
- ・大きな学校は校舎や設備が充実している印象があるから
- ・高校内で多様な部活動が作れた方が良くと思うから

(11) 1学年あたり2学級（80人）以下の「規模の小さな高校」での学びについて

生徒：あなたは、1学年あたり2学級（80人）以下の「規模の小さな高校」での学びについて、どのように考えていますか。（どのような印象を持っていますか）

保護者：あなたは、1学年あたり2学級（80人）以下の「規模の小さな高校」での学びについて、どのように考えていますか。（どのような印象を持っていますか）

※2つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

1学年あたり2学級（80人）以下の「規模の小さな高校」での学びについては、生徒では「一人ひとりが存在感を持ち、充実した高校生活を送ることができる」が67.5%で割合が最も高く、次いで「学び直しや生徒一人一人に寄り添った教育がなされている」が40.4%、「地域との関係が深く、地域を題材とした探究活動や、地域の方々との交流が盛んである」が19.1%、「生徒同士の交流や部活動に制約がある」が17.5%の順となっています。

また、保護者では「一人ひとりが存在感を持ち、充実した高校生活を送ることができる」が51.4%で割合が最も高く、次いで「学び直しや生徒一人一人に寄り添った教育がなされている」が36.0%、「《生徒の人数が少なく》生徒同士の交流や部活動に制約がある」が33.3%、「学びのサポートや地域活動において、教員以外の方々も高校の教育に携わっている」が15.6%の順となっていますが、「一人ひとりが存在感を持ち、充実した高校生活を送ることができる」では16.1ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔中学校3年生徒 その他の主な意見〕

- ・中学校も小規模であり、これまでと変わらない環境で学ぶことができる
- ・生徒全員と仲良くできる
- ・一人ひとりの良さを十分に発揮できる
- ・細やかな個別指導が期待できる
- ・競争力がない

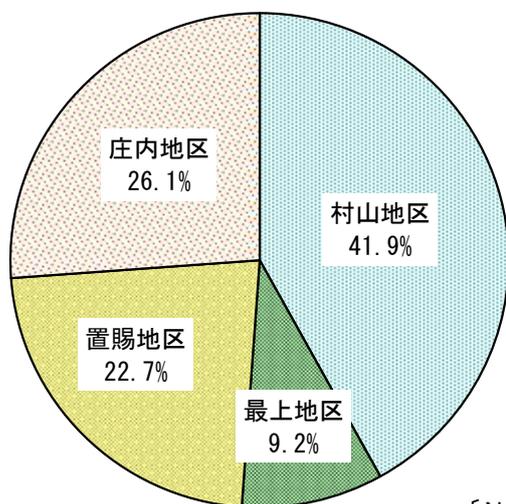
〔中学校3年保護者 その他の主な意見〕

- ・切磋琢磨できる環境を作り出せば少人数の方が伸びる
- ・教員の目が行き届く人数
- ・多様な意見を聞く機会に乏しい
- ・特に何も感じない

2. 高校1年生徒、保護者

(1) 現在通っている学校の地区

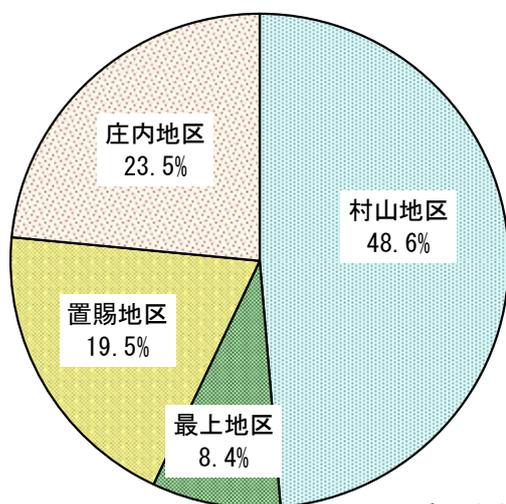
【高校1年生徒】



[N=1,748]

通っている学校の地区では、「村山地区」が41.9%、「最上地区」が9.2%、「置賜地区」が22.7%、「庄内地区」が26.1%となっています。

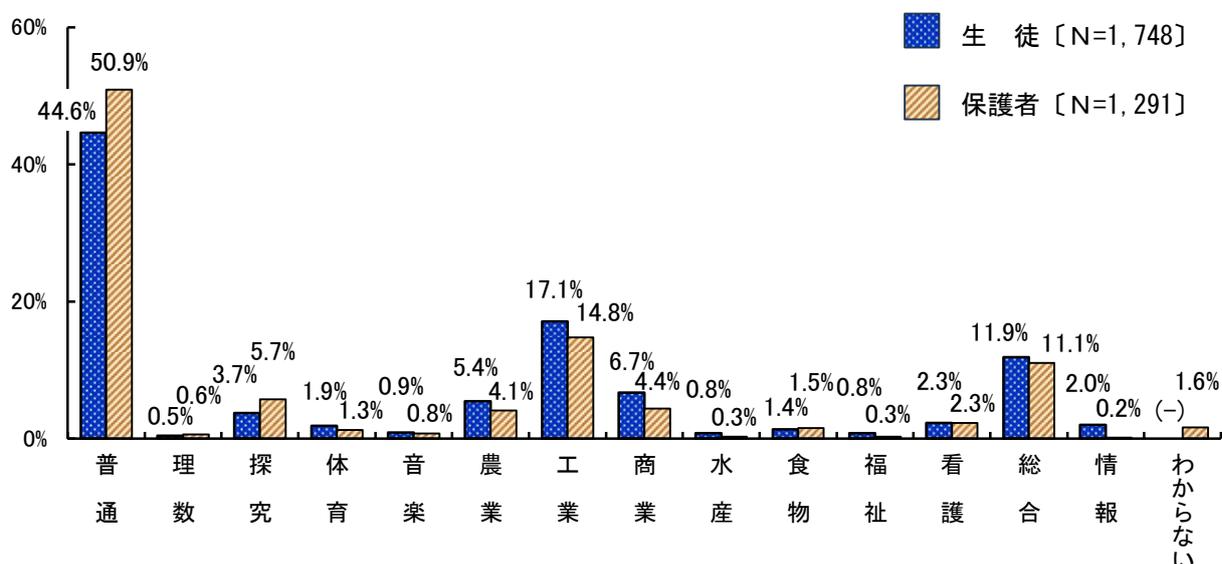
【高校1年保護者】



[N=1,291]

お子さんが通っている学校の地区では、「村山地区」が48.6%、「最上地区」が8.4%、「置賜地区」が19.5%、「庄内地区」が23.5%となっています。

(2) 現在通っている学校の学科名



現在通っている学校の学科は、生徒、保護者共に「普通」の割合が最も高く、次いで「工業」、「総合」の順となっています。

参考：県立高等学校全日制課程における専門に関する学科等設置状況（令和5年度）

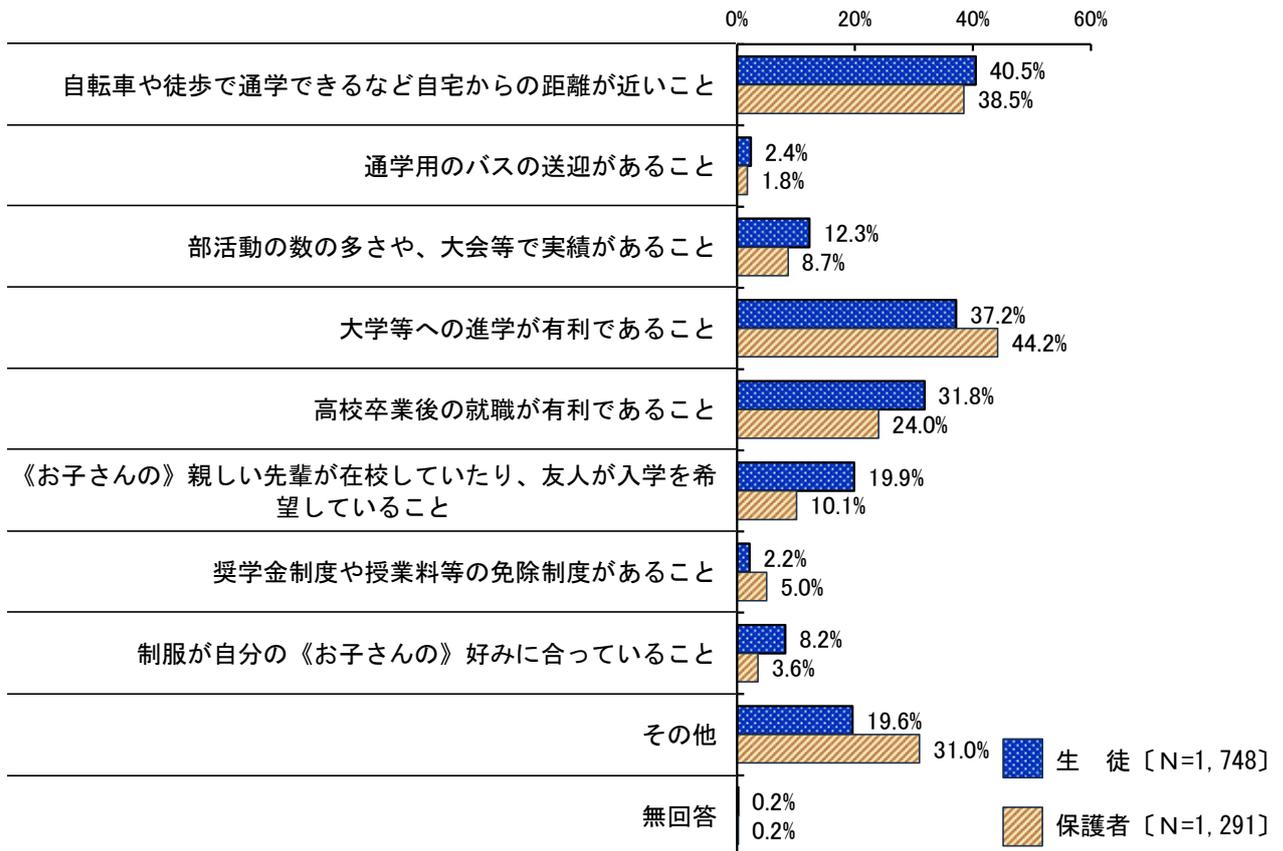
	大学科名	小学科名
職業学科	農業	食料環境、生物生産、農産活用、農業経営、食料生産、園芸福祉、食品科学、みどり活用
	水産	水産
	工業	機械、電気情報、建築、情報技術、電子情報、生産デザイン、電気電子、情報通信、環境工学、環境デザイン、環境技術、機械電気、環境化学、土木・化学、機械制御、機械技術、福祉環境、電子、メカニカルエンジニア、ロボットエンジニア、ITエンジニア
	商業	情報経営、総合ビジネス、流通ビジネス、ビジネス流通、ビジネス会計、商業
	家庭	食物、福祉
	看護	看護
	情報	情報
専門学科系	理数	理数、理数探究
	体育	スポーツ
	音楽	音楽
	国際	国際探究

※理数探究、国際探究は探究としている

(3) 中学校時代、高校を選んだときに重視したこと

生徒：あなたは中学生時代、高校を選んだときに、どのようなことを重視しましたか。
 保護者：あなたは、お子さんが高校を選んだときに、保護者としてどのようなことを重視しましたか。

※3つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

中学生時代、高校を選んだときに重視したことについては、生徒では「自転車や徒歩で通学できるなど自宅からの距離が近いこと」が40.5%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学が有利であること」が37.2%、「高校卒業後の就職が有利であること」が31.8%、「親しい先輩が在籍していたり、友人が入学を希望していること」が19.9%の順となっています。

また、保護者では「大学等への進学が有利であること」が44.2%で割合が最も高く、次いで「自転車や徒歩で通学できるなど自宅からの距離が近いこと」が38.5%、「高校卒業後の就職が有利であること」が24.0%、「《お子さんの》親しい先輩が在籍していたり、友人が入学を希望していること」が10.1%の順となっていますが、「大学等への進学が有利であること」では7.0ポイント保護者の割合が高く、「親しい先輩が在籍していたり、友人が入学を希望していること」では9.8ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

- ・自分の学びたい学科・科目があるから
- ・資格や検定に挑戦できるから
- ・自分の学力に合った学校だったから
- ・保護者の勧めや、兄弟姉妹が通っていたから
- ・学校の雰囲気がよく、楽しそうだったから
- ・学校の規模や立地を含め、望む学習環境があったから
- ・入りたい部活動があるから

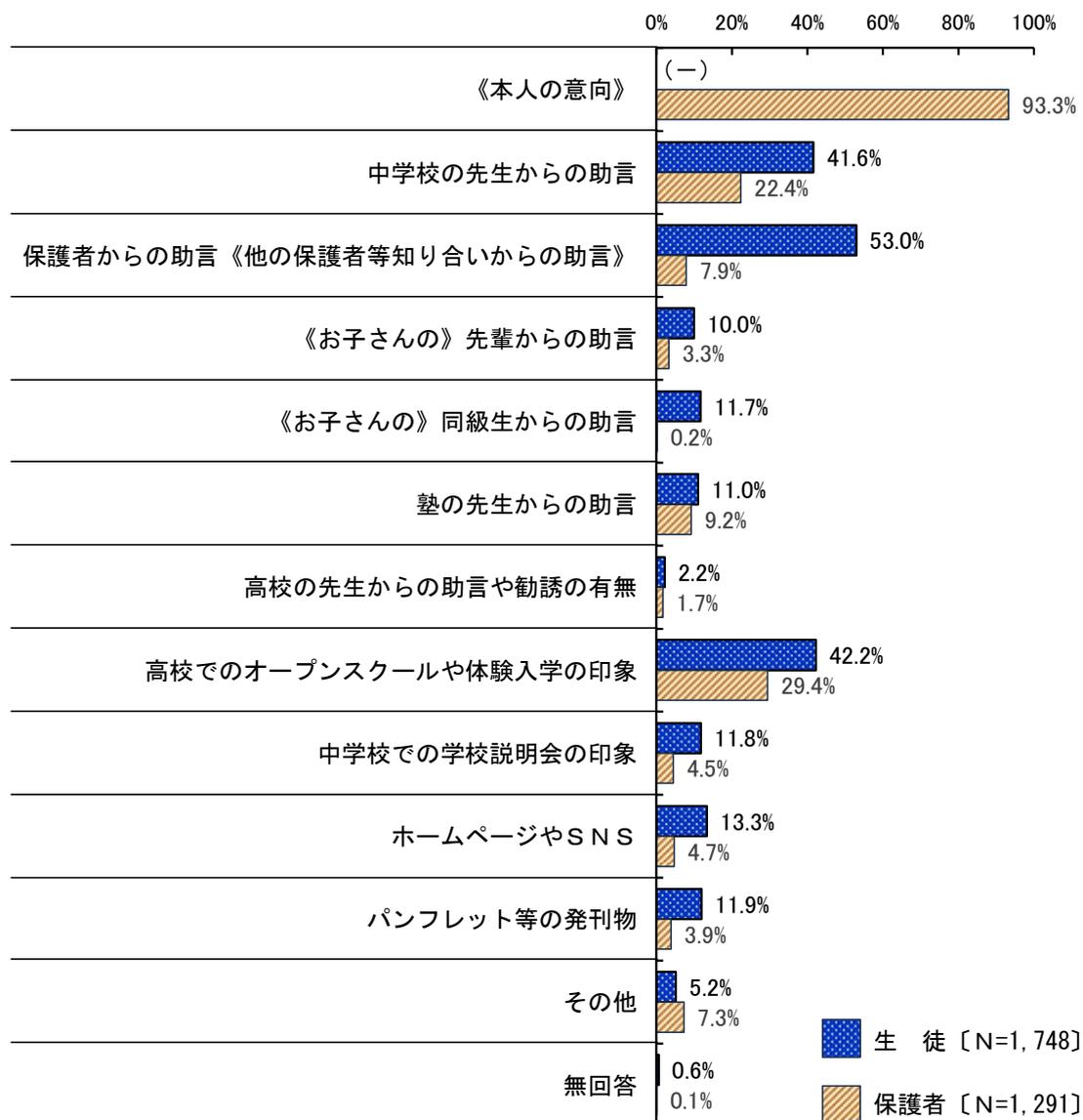
〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

- ・本人の希望
- ・本人の学びたい学科や科目があること
- ・本人の将来の進路目標がかなえられること
- ・本人の学力に合ったところ
- ・両親の出身校や、兄弟姉妹が通っている学校だったから
- ・学校の特色や校風、通学している生徒の雰囲気など
- ・安心して任せられる高校であること
- ・学校の校舎、設備が整っていること
- ・通学の便が良いこと

(4) 中学校時代に高校を選んだときに参考にしたもの

生徒:あなたが中学校時代に高校を選んだときに、参考にしたものはどれですか。
保護者:あなたは、お子さんの高校を選んだときに、何を参考にしましたか。

※3つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

中学校時代に高校を選んだときに参考にしたものについて、生徒では「保護者からの助言」が53.0%で割合が最も高く、次いで「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」が42.2%、「中学校の先生からの助言」が41.6%、「ホームページやSNS」が13.3%の順となっています。

また、保護者では「《本人の意向》」が93.3%で割合が最も高く、次いで「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」が29.4%、「中学校の先生からの助言」が22.4%、「塾の先生からの助言」が9.2%の順となっています。が、「中学校の先生からの助言」では19.2ポイント、「高校でのオープンスクールや体験入学の印象」では12.8ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

- ・自分の意志
- ・自分の成績
- ・兄弟姉妹からの勧めや助言
- ・兄弟姉妹が通学していた
- ・部活動の大会成績などの実績

〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

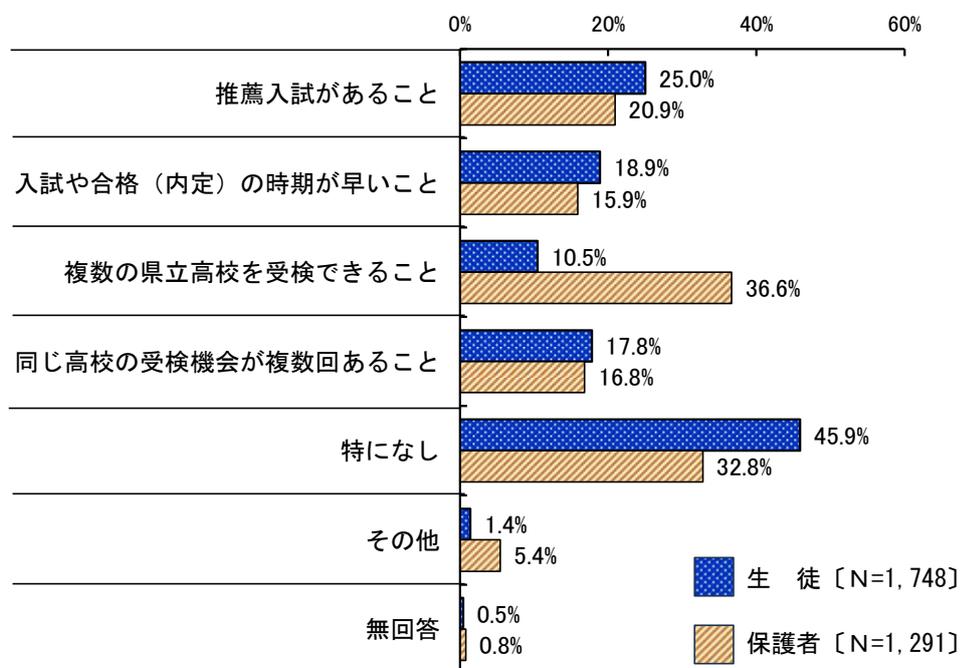
- ・本人の希望
- ・成績が合うかどうか
- ・兄弟姉妹からの勧めや助言
- ・高校卒業後の進路を参考にした
- ・説明会での生徒の姿や丁寧な相談
- ・校風やまわりの評判

(5) 高校入試について重要だと思うこと

生徒：あなたが高校入試について重要だと思うことはどれですか。

保護者：あなたは、保護者の考えとして、高校入試について重要だと思うことはどれですか。

※2つまで回答



高校入試について重要だと思うことについては、生徒では「特になし」が45.9%で割合が最も高く、次いで「推薦入試があること」が25.0%、「入試や合格（内定）の時期が早いこと」が18.9%、「同じ高校の受検機会が複数回あること」が17.8%の順となっています。

また、保護者では「複数の県立高校を受検できること」が36.6%で割合が最も高く、次いで「特になし」が32.8%、「推薦入試があること」が20.9%、「同じ高校の受検機会が複数回あること」が16.8%、「入試や合格（内定）の時期が早いこと」が15.9%の順となっていますが、「複数の県立高校を受検できること」では26.1ポイント保護者の割合が高く、「特になし」では13.1ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

- ・自分のやりたいことで高校を選ぶこと
- ・勉強して学力をつけること
- ・最後まで諦めないこと
- ・平等で公正であること

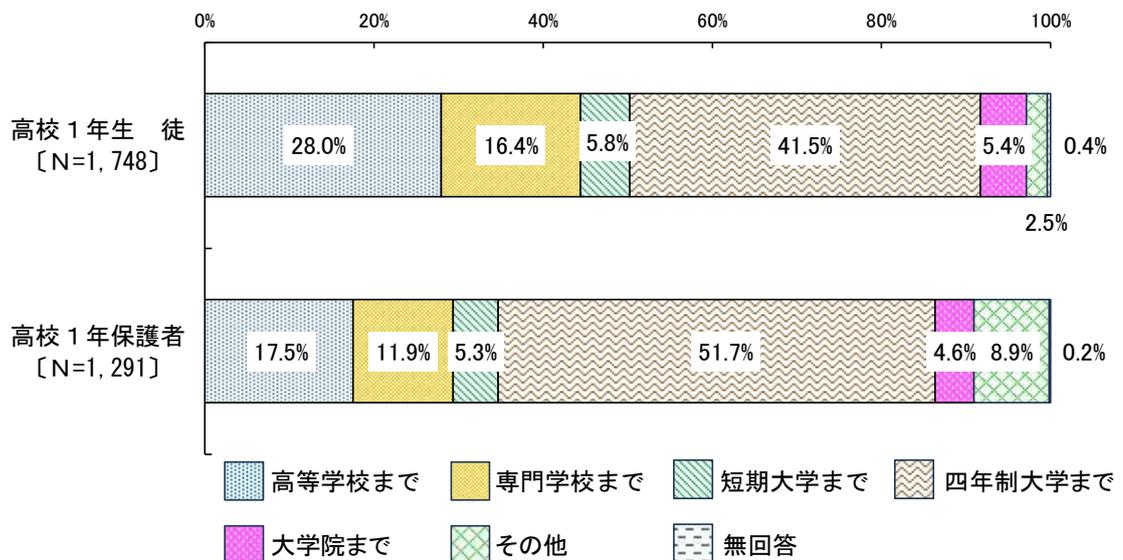
〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

- ・将来の目標に向かって努力して受検すること
- ・希望する生徒が全員合格すること
- ・受検日程の早期化
- ・学区制の撤廃や二次募集など複数の受検機会があること
- ・ミスのない、公平公正で透明性のある入試
- ・不登校児童への配慮や受け入れがあること

(6) 希望学歴について

生徒:あなたはどの程度までの教育を受けたいと思いますか。
 保護者:あなたは、保護者の考えとして、お子さんにはどの程度までの教育を受けさせたい
 と思いますか。

※1つ回答



受けたい教育の程度については、生徒では「四年制大学まで」が41.5%で割合が最も高く、次いで「高等学校まで」が28.0%、「専門学校まで」が16.4%、「短期大学まで」が5.8%の順となっています。

また、保護者では「四年制大学まで」が51.7%で割合が最も高く、次いで「高等学校まで」が17.5%、「専門学校まで」が11.9%、「短期大学まで」が5.3%の順となっていますが、「四年制大学まで」では10.2ポイント保護者の割合が高く、「高等学校まで」では10.5ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

- ・医学部や薬学部などの六年制
- ・四年制大学、短大
- ・専攻科
- ・専修学校
- ・未定、まだわからない

〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

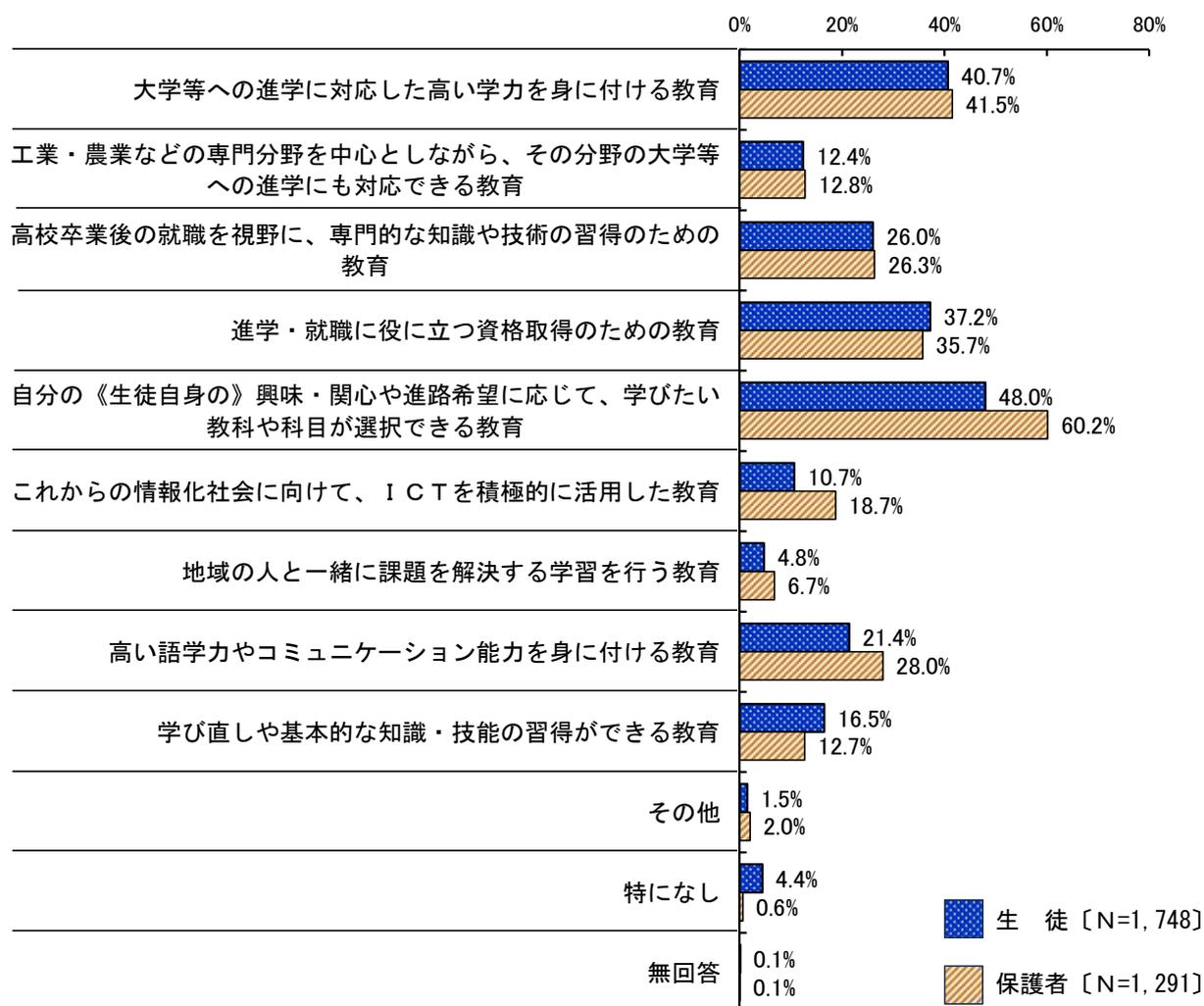
- ・本人の希望を尊重
- ・未定、まだわからない

(7) 高校教育に望むこと

生徒:あなたは、高校の教育について、どんなことを望みますか。

保護者:あなたは、保護者として、高校の教育について、どんなことを望みますか。

※3つまで回答



※《 》は、保護者に対する調査の設問

高校教育に望むことについては、生徒では「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が48.0%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が40.7%、「進学・就職に役に立つ資格取得のための教育」が37.2%、「高校卒業後の就職を視野に、専門的な知識や技術の習得のための教育」が26.0%の順となっています。

また、保護者では「自分の《生徒自身の》興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が60.2%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が41.5%、「進学・就職に役に立つ資格取得の

ための教育」が 35.7%、「高い語学力やコミュニケーション能力を身に付ける教育」が 28.0%の順となっていますが、「自分の《生徒自身の》興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」では 12.2 ポイント保護者の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

- ・広い分野の学びで社会に柔軟に適応できる将来役に立つ教育
- ・それぞれが自律して生活を営むことができるようにする教育
- ・生徒も先生も楽しみながら進められる教育

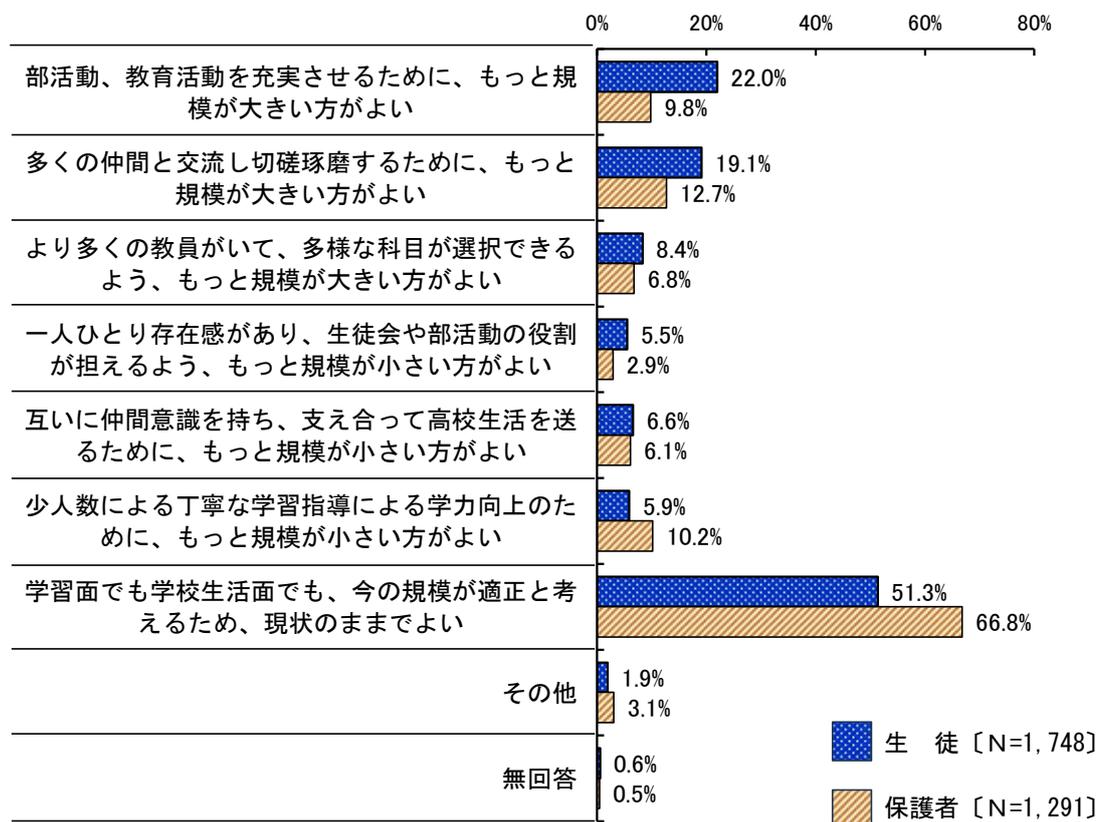
〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

- ・生徒自身の考えを尊重しながら、興味・関心が高まるような面白い教育
- ・社会性を高める教育
- ・これからの社会を乗り越えられる柔軟な思考を育成する教育
- ・探究学習やプレゼンテーションなど表現する機会が多い教育

(8) あなたの通う学校の規模（生徒数）の評価

生徒：あなたは、あなたの通う学校の規模（生徒数）をどのように評価していますか。
 保護者：あなたは、保護者として、お子さんの通学する学校の規模（生徒数）をどのように評価していますか。

※2つまで回答



あなたの通う学校の規模（生徒数）の評価について、生徒では「学習面でも学校生活面でも、今の規模が適正と考えるため、現状のままでよい」が51.3%で割合が最も高く、次いで「部活動、教育活動を充実させるために、もっと規模が大きい方がよい」が22.0%、「多くの仲間と交流し切磋琢磨するために、もっと規模が大きい方がよい」が19.1%、「より多くの教員がいて、多様な科目が選択できるよう、もっと規模が大きい方がよい」が8.4%の順となっています。

また、保護者では「学習面でも学校生活面でも、今の規模が適正と考えるため、現状のままでよい」が66.8%で割合が最も高く、次いで「多くの仲間と交流し切磋琢磨するために、もっと規模が大きい方がよい」が12.7%、「少人数による丁寧な学習指導による学力向上のために、もっと規模が小さい方がよい」が10.2%、「部活動、教育活動を充実させるために、もっと規模が大きい方がよい」が9.8%の順となっていますが、「学習面でも学校生活面でも、今の規模が適正と考えるため、現状のままでよい」では15.5ポイント保護者の割合が高く、「部活動、教育活動を充実させるために、もっと規模が大きい方がよい」では12.2ポイント生徒の割合が高くなっています。

〔高校1年生徒 その他の主な意見〕

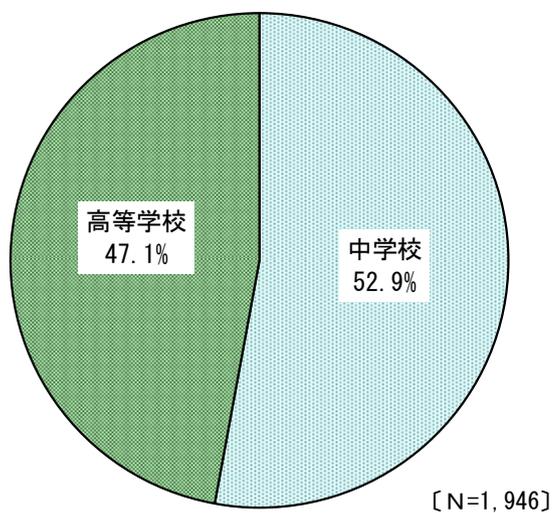
- ・一クラスの人数を減らし、一人ひとりに目が行き届くようにして欲しい
- ・40人のクラスでは、教室が狭い
- ・小規模校では、一人ひとりに親身な指導が行われていてよい
- ・特になし

〔高校1年保護者 その他の主な意見〕

- ・一クラスあたりの人数が多い
- ・少人数指導も含め、親身な教育ができる規模
- ・現在のままでよい

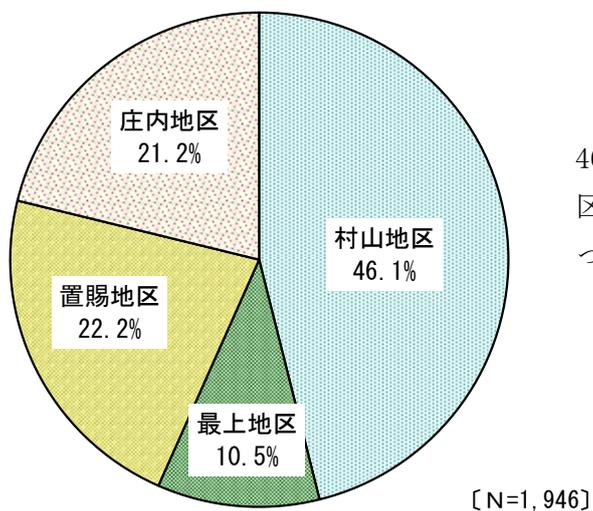
3. 中学校教員、高校教員

(1) 所属校の種別



所属校の種別では、「中学校」が52.9%、「高等学校」が47.1%となっています。

(2) 所属校の地区別

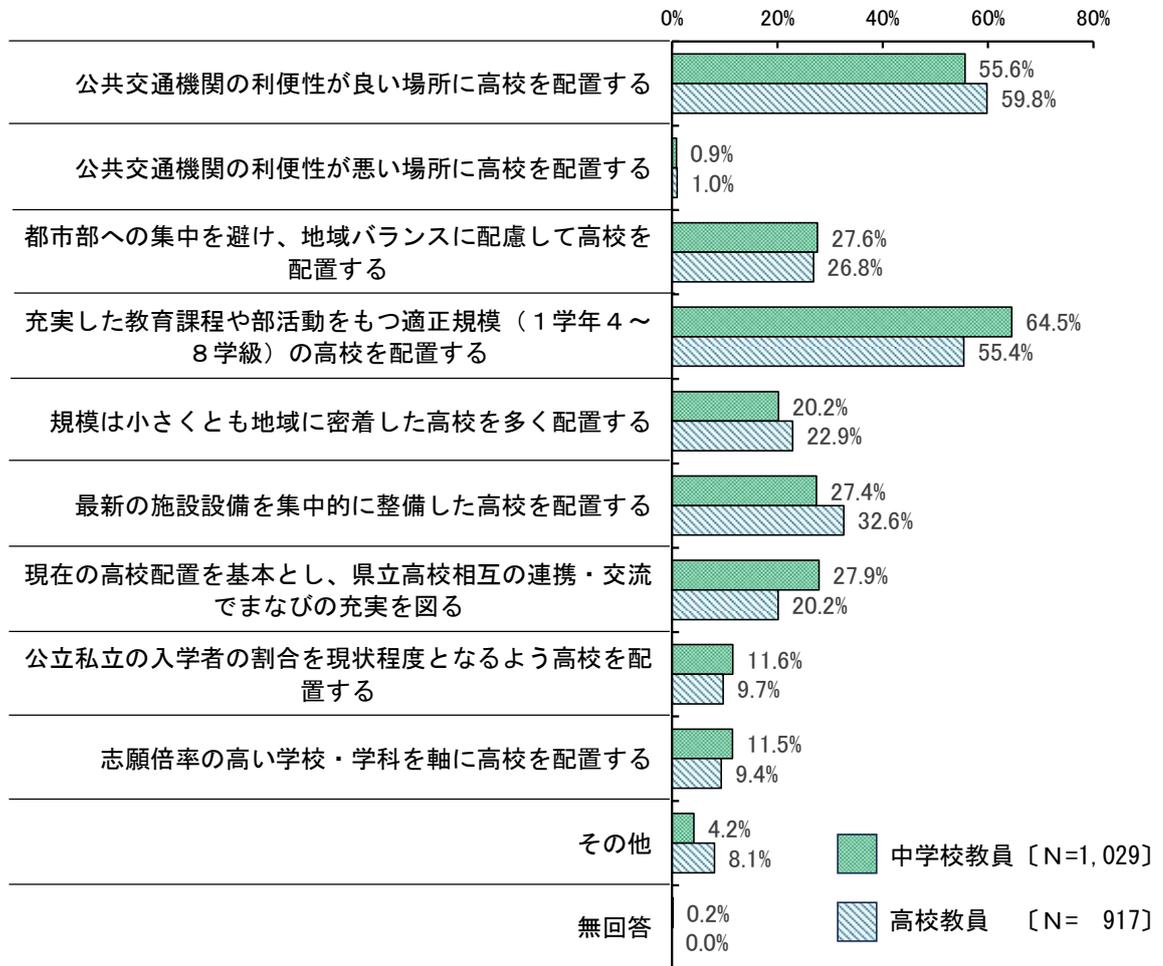


所属校の地区は、「村山地区」が46.1%、「最上地区」が10.5%、「置賜地区」が22.2%、「庄内地区」が21.2%となっています。

(3) 教員の立場から、今後の県立高校の配置を考える上で重視すること

あなたは教員の立場から、今後の県立高校の配置を考える上で、何を重視すべきだと思いますか。

※3つまで回答



教員の立場から、今後の県立高校の配置を考える上で重視することについて、中学校教員では「充実した教育課程や部活動をもつ適正規模（1学年4～8学級）の高校を配置する」が64.5%で割合が最も高く、次いで「公共交通機関の利便性が良い場所に高校を配置する」が55.6%、「現在の高校配置を基本とし、県立高校相互の連携・交流でまなびの充実を図る」が27.9%、「都市部への集中を避け、地域バランスに配慮して高校を配置する」が27.6%の順となっています。

また、高校教員では「公共交通機関の利便性が良い場所に高校を配置する」が59.8%で割合が最も高く、次いで「充実した教育課程や部活動をもつ適正規模（1学年4～8学級）の高校を配置する」が55.4%、「最新の施設設備を集中的に整備した高校を配置する」が32.6%、「都市部への集中を避け、地域バランスに配慮して高校を配置する」が26.8%の順となっていますが、「充実した教育課程や部活動をもつ適正規模（1学年4～8学級）の高校を配置する」では9.1ポイント、「現在の高校配置を基本とし、県立高校相互の連携・交流でまなびの充実を図る」では7.7ポイント中学校教員の割合が高くなっています。

〔中学校教員 その他の主な意見〕

- ・ 特色ある学びができる環境づくり
- ・ 様々な進路に対応できる学び
- ・ 定員が割れない程度の高校数に再編すること
- ・ 特別支援教育の充実を図ること

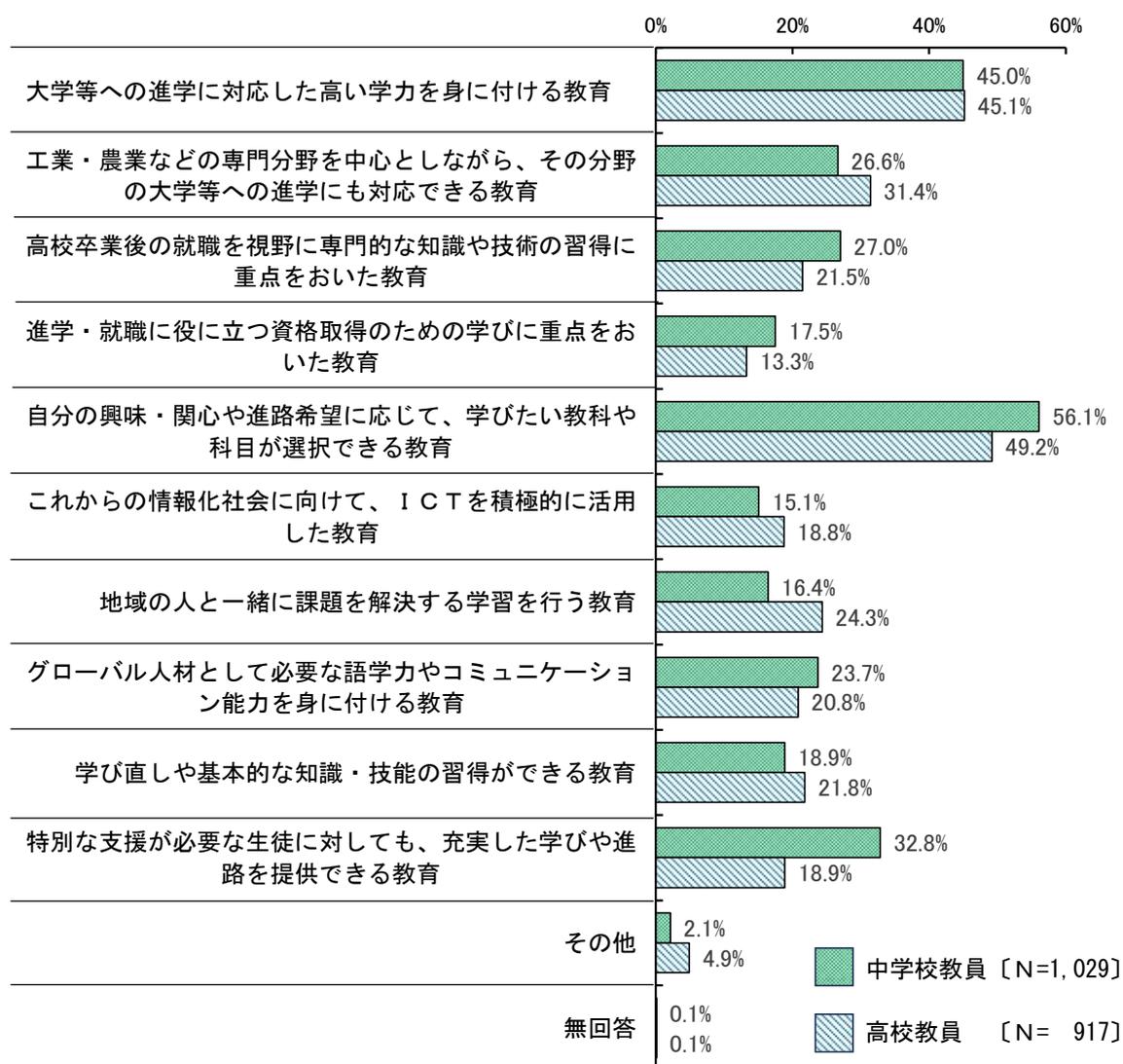
〔高校教員 その他の主な意見〕

- ・ 十分な教育を行う教員定数の配置
- ・ 空調や I C T 機器など、学習するのに快適な環境が整備されていること
- ・ 県内全ての高校のバランスを考慮した適正規模の学校再編整備の推進
- ・ スクールバス等、通学の便の改善

(4) 教員の立場から、高校の教育に望むこと

あなたは教員の立場から、高校の教育について、どんなことを望みますか。

※3つまで回答



教員の立場から、高校の教育に望むことについて、中学校教員では「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が56.1%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が45.0%、「特別な支援が必要な生徒に対しても、充実した学びや進路を提供できる教育」が32.8%、「高校卒業後の就職を視野に専門的な知識や技術の習得に重点をおいた教育」が27.0%の順となっています。

また、高校教員では「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」が49.2%で割合が最も高く、次いで「大学等への進学に対応した高い学力を身に付ける教育」が45.1%、「工業・農業などの専門分野を中心としながら、

その分野の大学等への進学にも対応できる教育」が 31.4%、「地域の人と一緒に課題を解決する学習を行う教育」が 24.3%の順となっていますが、「特別な支援が必要な生徒に対しても、充実した学びや進路を提供できる教育」では 13.9 ポイント、「自分の興味・関心や進路希望に応じて、学びたい教科や科目が選択できる教育」では 6.9 ポイント中学校教員の割合が高くなっています。

〔中学校教員 その他の主な意見〕

- ・それぞれの高校の特徴を明確にした教育
- ・モラルや規範意識、社会人としての心構えなどを最低限身につける教育
- ・自分のキャリアを描き、自己実現できる教育
- ・生徒の将来の夢の実現に役立つ教育
- ・地域社会の課題解決につながるような探究活動の充実
- ・必要な教員の配置と指導力向上

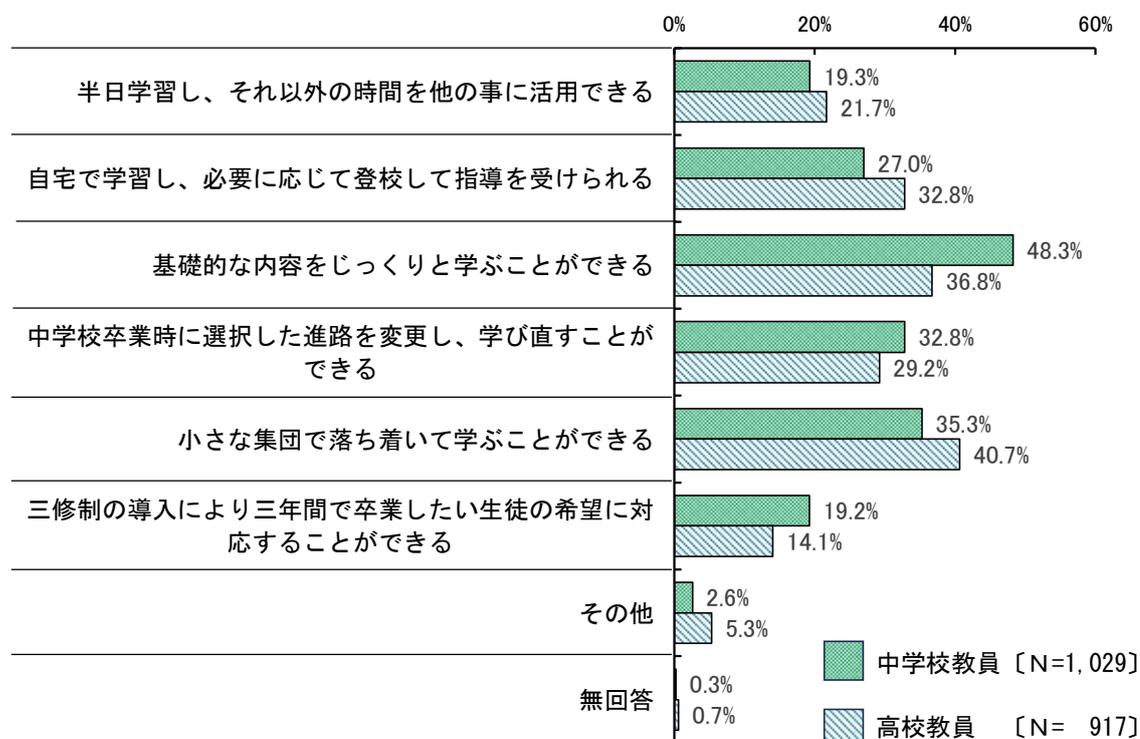
〔高校教員 その他の主な意見〕

- ・生徒の多様性に応じて少人数学級で指導できる教育
- ・道徳や社会常識、規範意識を身につける教育
- ・生徒の意志や個性を尊重する教育
- ・外部人材を活用し、教員本来の業務に専念できる体制作り
- ・持続可能な地域社会を築く人材の育成

(5) 教員の立場から、今後の定時制・通信制教育に期待すること

あなたは教員の立場から、今後の定時制・通信制教育に何を期待しますか。

※2つまで回答



教員の立場から、今後の定時制・通信制教育に期待することについて、中学校教員では「基礎的な内容をじっくりと学ぶことができる」が48.3%で割合が最も高く、次いで「小さな集団で落ち着いて学ぶことができる」が35.3%、「中学校卒業時に選択した進路を変更し、学び直すことができる」が32.8%、「自宅で学習し、必要に応じて登校して指導を受けられる」が27.0%の順となっています。

また、高校教員では「小さな集団で落ち着いて学ぶことができる」が40.7%で割合が最も高く、次いで「基礎的な内容をじっくりと学ぶことができる」が36.8%、「自宅で学習し、必要に応じて登校して指導を受けられる」が32.8%、「中学校卒業時に選択した進路を変更し、学び直すことができる」が29.2%の順となっていますが、「自宅で学習し、必要に応じて登校して指導を受けられる」が5.8ポイント、「小さな集団で落ち着いて学ぶことができる」では5.4ポイント高校教員の割合が高く、「基礎的な内容をじっくりと学ぶことができる」では11.5ポイント中学校教員の割合が高くなっています。

〔中学校教員 その他の主な意見〕

- ・ 支援が必要な生徒なども安心して学ぶことができる個別最適な教育
- ・ 本人の希望に沿った学習と進路の実現に対応することができる教育
- ・ モラルや規範意識、社会人としての心構えなどを最低限身につける教育

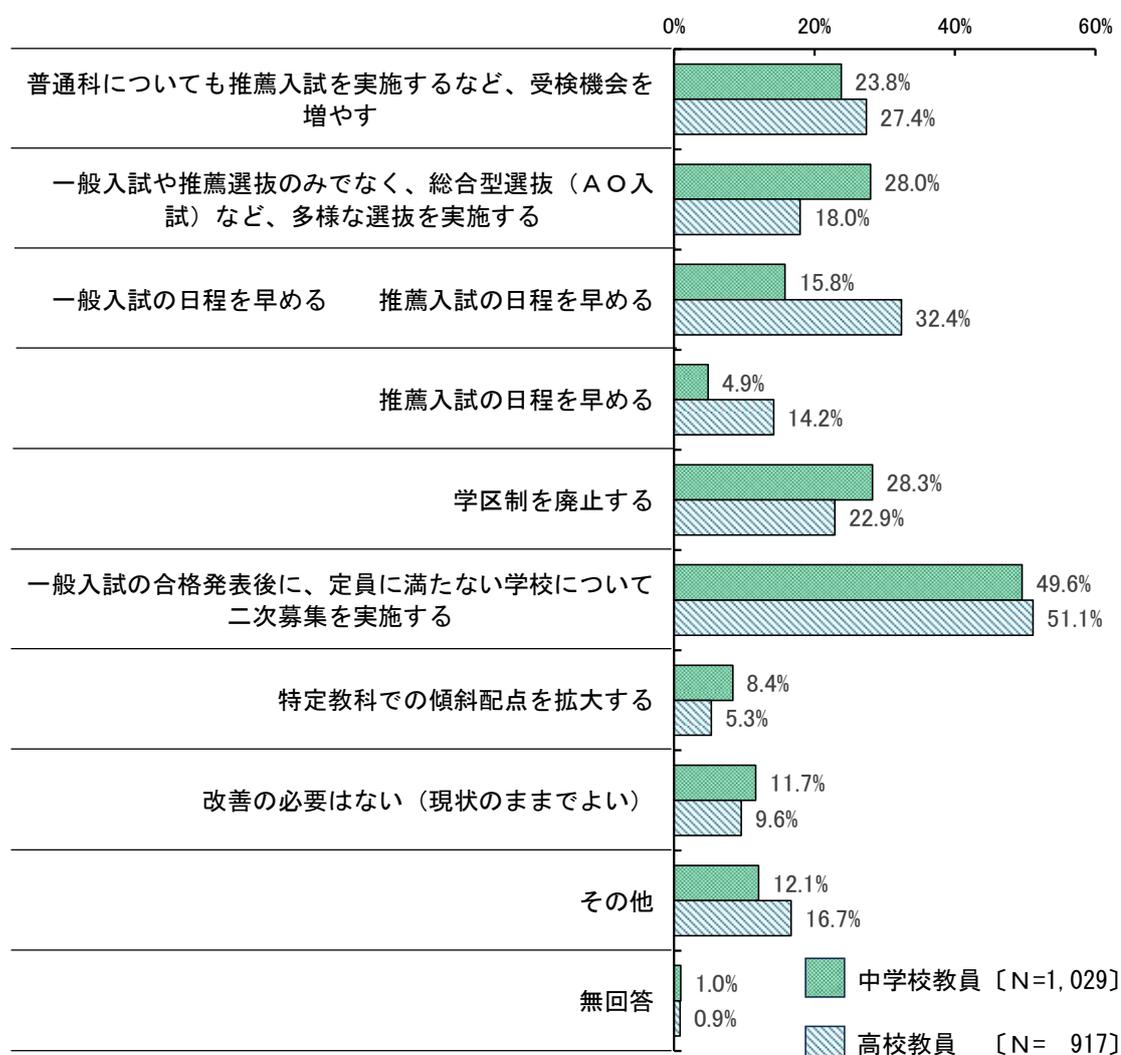
〔高校教員 その他の主な意見〕

- ・ 個々に最適化された学びの提供
- ・ 特別な支援を要する生徒にも対応可能なカリキュラム
- ・ 生徒の進路希望を支援することができる体制
- ・ 生徒の特性に応じた指導を受けることができる教育

(6) 高校入試について望む改善

現在、公立高校の入学選抜改善検討委員会により、高校入試制度の改善を検討しています。あなたは教員の立場から、高校入試についてどのような改善を望みますか。

※3つまで回答



高校入試について望む改善について、中学校教員では「一般入試の合格発表後に、定員に満たない学校について二次募集を実施する」が49.6%で割合が最も高く、次いで「学区制を廃止する」が28.3%、「一般入試や推薦選抜のみでなく、総合型選抜（AO入試）など、多様な選抜を実施する」が28.0%、「普通科についても推薦入試を実施するなど、受検機会を増やす」が23.8%の順となっています。

また、高校教員では「一般入試の合格発表後に、定員に満たない学校について二次募集を実施する」が51.1%で割合が最も高く、次いで「一般入試の日程を早める」が32.4%、「普通科についても推薦入試を実施するなど、受検機会を増やす」が27.4%、「学区制を廃止する」が22.9%の順となっていますが、「一般入試の日程を早める」では16.6ポイント高校教員の割合が高く、「一般入試や推薦選抜のみでなく、総合型選抜（AO入試）など、多様な選抜を実施する」では10.0ポイント中学教員の割合が高くなっています。

〔中学校教員 その他の主な意見〕

- ・ 出願手続きのデジタル化による出願者の負担軽減
- ・ 推薦選抜を廃止し、学力検査を重視した選抜
- ・ 面接や口頭試問の導入、総合型選抜など学力検査以外での多様な入試方法
- ・ 二次募集や志願変更、併願など選抜機会を増やす
- ・ 高校の統廃合を進め、適切な倍率を保つ
- ・ 学習指導要領に準じた出題など問題の最適化

〔高校教員 その他の主な意見〕

- ・ マークシートの導入やWeb出願等による入選業務の効率化
- ・ 推薦制度の拡充
- ・ 普通科の推薦廃止や学力検査を重視した入選
- ・ 問題の難易度選択や傾斜配点など、学校裁量での入選
- ・ 受検機会の複数化
- ・ 公私立の日程や定員バランスの改善

令和6年6月
(編集・発行) 山形県教育局 高校教育課 高校未来創造室
〒990-8570
山形市松波二丁目8番1号
(電話) 023-630-2493

